



ご復活おめでとございます！

卵が復活祭のシンボルとなった理由を皆さんはご存じですか？

堅い殻の中で眠っているように息をひそめている雛が殻を破って誕生する姿が、石の墓に葬られたキリストの復活に似ているからだそうです。またなぜエッグハントを女性や子どもがするのか、これはキリストの墓を見に行き、墓が空であることを発見し、キリストを探しに行ったエリザベトに由来するそうです。私達もまた静かに祈り、断食や施しをする四旬節から、殻を割って新たに生まれ変わった気持ちで主の復活をお祝いし感謝しましょう。

+++++

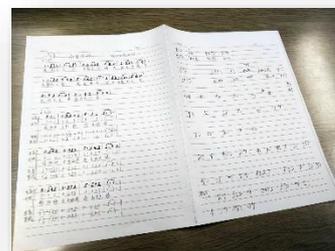
青年会より

カトリック大宮教会青年会の活動報告です。

【音楽グループ-Musical group-】

3月の音楽グループの集いは、中国語の歌を集まった若いメンバーと一緒に歌い親交を深めました。現在、音楽グループは中国語やスペイン語などの歌と一緒に練習していますが、他にも日本語や英語などの歌も歓迎しています。また、自分たちで音楽を作ったりすることも検討中です。

次回の集いは、第一日曜日のミサ後 12:30～1:30で行っています。興味のある方は、ぜひ気軽にお越しください。



【お菓子グループ～エッグハント～】

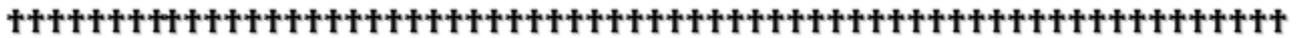
今年も聖土曜日と復活の主日に、青年会主催のエッグハントを行います。ぜひお越しください。

今後も少しずつ、親交の場を作っていきたいと思っています。若いと思う方は、ぜひいらしてください。何卒よろしくお願ひいたします。

代表 石黒

+++++

内容 【青年会より】 【堅信を受けて】 【信徒委員会】 マスクの着用 【総務部】 受付当番
【営繕部】 お手伝い 【青少年養成部】 初聖体勉強会
【その他】 毎日のミサ購読 【復興支援カレー】 【山口神父様 復活の主日のメッセージ】
【サモア～主によばれて (26)】



堅信を受けて

11月に堅信を受けた6名のうち、おひとりから感想をいただきました。

(注：勉強会は7人が受講しましたが、当日体調不良のため一人欠席でした)



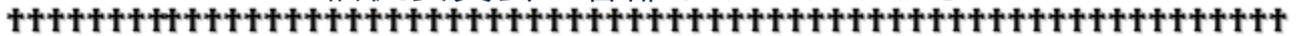
僕は大宮教会で堅信を行いました。堅信式をする前に土曜日の夜に他の中学生や高校生と集まって勉強会を行いました。最初は学校の授業のように勉強をするのかと思っていましたが、違いました。初めて勉強会に行った時は兄と一緒に他の人も含めて6人の中学生と高校生でした。勉強会では聖書を読んだりしてたくさんのお話を学び、勉強会では斉藤さんや神父様が教えてくれました。

そして堅信当日、ミサを受けた後、堅信を受けました。その時兄が熱で休んでしまったので、少し緊張しました。堅信を受けた後、拍手をしてもらいました。この時何かを認めてもらったような気がしました。堅信式を受けましたが、最近テストなどがあり、ミサにあまり行けていません。今後、冬休みなどはなるべく行けるようにしていきたいです。

T.M



<信徒委員会・各部からのお知らせ>



<信徒委員会より>

* マスクの着用について

これまで感染予防のために、聖堂内でのマスクの着用をお願いしてきましたが、復活祭後(4/7のミサ～)からは解除とします。ただし司祭、侍者、聖体奉仕者は引き続き着用します。

<青少年養成部より>

初聖体の勉強会日程

- ・4月28日(日) ミサ後～15:00
*4/21の予定から変更)
- ・5月19日(日) //
- ・6月1日(土) 10:00～12:00

<総務部より>

受付当番は毎週金曜日と日曜日

10:00～13:00

<宮繕部より>

お手伝いして下さる方を募集します。以下の設備点検の立ち合いをお願いします。

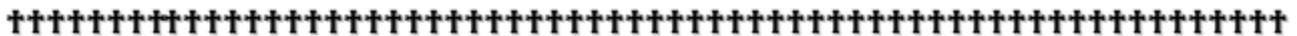
- ① 電気点検 (関東電気保安協会)
: 2か月に1回/平日午後3時以降
(幼稚園と合同)
- ② 消防設備点検: 年2回/平日午後3時以降
(幼稚園と合同)
- ③ エレベーター点検: 年2回 (教会のみ)
立ち合いのみで難しいことはありません。
よろしくお願いします。 菊池

<その他>

・「毎日のミサ」購読のお誘い: カトリック中央協議会出版部より2か月ごとに出版されている「毎日のミサ」を個人で購読されている方もいらっしゃると思いますが、今年度(2024年5月～2025年4月分)の受付を開始しました。

教会でまとまった部数を注文することで、割引率が高くなり、その分で神父様用2部、教会用4部を賄うことができます。この機会にご協力ください。よろしくお願いいたします。

見沼区 須田



復興支援カレー再開のお知らせ

少しでも復興支援に協力できたら、と2011年夏より、毎月第二日曜日のミサ後(夏季はお休みに)に手作りのカレーライスを召し上がり寄附をいただけてきました。新型コロナウイルス感染症蔓延のためにしばらくお休みしておりましたが、4月14日から再開することにしました。全額はカリタスさいたまに寄付させていただきます。ご協力よろしくお願いいたします。

遠藤、八代

桜の「復活」

主任司祭 フランシスコ 山口 一彦

今、この原稿を書いているのは、2024年の1月中旬です。半月ほど前には、能登半島でたいへんな地震が起きました。いまだに行方不明者の捜索が続いています。孤立状態の村落、あるいは避難所などで、寒さと不安に震えている人たちがいます。ウクライナやガザでは、激しい戦闘が続いています。北半球の国々では、物質的にも精神的にも、まだまだ春が遠いようです。でも、そんな人の世の騒動を知ってか知らずか、大自然の営みは華やかな春に向けて、着々と歩みを進めていくことでしょう。皆さんがこの文章を読む頃には、水がゆるみ、光が輝きを増していることでしょう。

もっとも、この大自然の歩みの方も、環境を破壊する人間たちの無礼な行いの影響で、記録的な異常気象が繰り返されています。ひと昔前までは、毎年同じような時期に桜が開花して、同じような時期に満開を迎えたものですが、ここ数年は、年々その時期が早まっているように感じます。今年の復活祭は、3月31日。関東では通常、桜が開花し始めている頃ですが、今年はどうなりますでしょうか。満開の桜の光景を想像しながら、この文章をしたためています。

主のご復活に相応（ふさわ）しい花、それは桜をおいて他にない、と私は思います。桜の花芽（かが）は、前の年の夏に作られ、程なく休眠に入ります。静かにじっと冬が過ぎ去るのを待っているのかなと考えてしまいますが、実は違います。この花芽の休眠を打ち破るのは、冬の寒さなんだそうです。手足が痺（しび）れそうな寒さに晒（さら）させることで、桜の固い花芽は休眠から目覚め、開花の準備に入ります。フィリピンなど、冬のない常夏（とこなつ）の国に日本の桜を移植しても、なかなかうまく開花しないのは、このためです。桜の花が美しく咲くためには、春の暖かさではなくて、冬の寒さが必要だったんですね。

春の嵐（あらし）と言って、3月頃に突然、強い風雨の襲（おそ）ってくる日があります。翌朝、道端（みちばた）には無残（むざん）に折られた桜の枝が落ちています。その枝の折れた傷口をよく観察すると、ほんのりとピンク色に色づいていることに気づきます。目の錯覚か

なと思うほどの微（かす）かな色合いなのですが、確かにそれは、私たちが心待ちにしている桜の花びらの色です。

草木染めに「桜染め」というのがあります。2月から3月頃、桜の樹皮や小枝を煮出して作ります。淡くて深い、心落ち着くような染め物が出来上がります。これは他の季節に作ることはできないんだそうです。4月の開花に向けて、桜の木は全身で準備をしていたんですね。あんなにゴツゴツしていて、固くて醜（みにく）い幹や枝の内側で、一生懸命、桜色になろうとしているんですね。

私たちはイエス様の後に従って、いつの日にか復活の栄光に入っていくことになります。神の子が約束して下さったんですから、間違いありません。でも、そのためには、これもイエス様と同じように、私たちも受難に耐えなければなりません。桜の開花のために厳しい冬の寒さが必要なのと、よく似ていますね。

ならば、桜を手本にしましょう。復活の開花に向けて、一生懸命、全身でピンク色に染まっていく桜のように、私たちも復活に向けて、全身で準備をしていきましょう。それは、全身を「愛」で染めることです。冬の寒さのような、人生の厳しい苦難に出会った時こそ、安穩（あんのん）とした休眠から目覚め、外側の見かけに拘（こだわ）ることなく、心の内側を「愛」一色に染めていきましょう。この努力に、イエス様は必ず応えて下さることでしょう。神様の栄光の中で、私たちの可能性を全て開花させて下さることでしょう。

皆さんがこの拙（つたな）い文章を読んでいる頃、震災の被災者たちに、少しは寛（くつろ）げる日々が訪れているのでしょうか。戦争やコロナやインフルエンザはどうなっているのでしょうか。もしかしたら全く別のことで、皆さんお一人おひとりの上に、個別の大問題、予期せぬ混乱や騒動が生じているかもしれません。でも、永遠に続く試練などありません。「復活」は必ずやってきます。何が最も大切なことなのか、それを自問自答しながら、桜のように怠（おこた）りなく、内面の準備を続けていきたいものです。

† サモア～主に呼ばれて (26) †

南半球のオーストラリアは 6 月になると秋も深まり、だいぶ寒くなってきました。7 月には常夏の国に引っ越すとは言っても、寒さは我慢できず、コートや他の衣服も少し買いました。

だんだん雨も多くなってきました。パースのある西オーストラリアの南の方は、冬に雨がよく降ります。そのため牧草地は冬になると緑になり、夏になると枯れてしまいます。ちょうど日本とは反対です。最低気温も 10℃を少し下回るくらいで、埼玉辺りよりはだいぶ暖かいのですが、やはり朝晩は寒く感じました。

出発日も決まったので、やることをどんどん片づけていかなければなりません。語学学校が終わると、パースでのホームステイ先にはいられなくなるので、アルバニーに戻ることにし、以前のホームステイ先にもう一度滞在させてほしいとお願いしたり、航空券を買ったり、銀行の口座を閉じる手続きなど、語学学校に通いながら多くのことをしなければなりませんでした。

当時はオーストラリアの金利が高く、たいした金額を預けていないし、口座を開設してから 8 か月くらいだったのですが、利息が 30 ドルほどついていて驚きました。当時のオーストラリアでは利息は普通預金でも 7%、定期だと 11%もついていました。今の日本では考えられないことですね。

佳美とは手紙で結婚の相談をしていました。サモアの学校が夏休みになる 12 月に結婚することや日本が夏休みになる 8 月にサモアに来て、結婚の相談をすることなどを手紙でやり取りしていました。

日本からの手紙はだいたい 5 日で届いていました。オーストラリアからの方が、日数がかかっていたようですが、1 週間くらいでしょうか。今だったら、スマホのアプリを使ってオンラインで話をしたり、文章でもすぐに伝えたりできますが、当時は手紙と本当にたまの電話しかありませんでした。

行き返りで 2 週間かかる手紙で、結婚式の司式は私に洗礼を授けてくださったローランド神父様にお願いすることや、当時浦和教会に来ていた援助修道会の Sr.小塚を頼るとよいことなどを伝えました。

また、佳美は洗礼を受けるためにイグナチオ教会にも通い始めてくれました。結婚講座も一人で参加したと聞いています。普通は二人で参加するものなので、周りの人もびっくりしていたのではないかと遠く離れて思っていました。

12 月に結婚することをパースのホストファミリーに話をすると、自分たちも英語を教えるボランティアとして日本に行くので、ぜひ結婚式に出たいと言われました。このことはちょっとしたサプライズでした。

あとは出発日を待つだけという感じで第 2 の故郷のようなアルバニーに戻りました。パースからアルバニーまでのバスの車窓から見る牧草地は、一面緑できれいでした。日本から、夏の西オーストラリア州に行くと一面枯草ばかりですし、土も赤茶けた色で、車から見える景色にがっかりするかもしれません。

アルバニーでは最初のホームステイ先の居心地がよく、今回も出発するまでの 2 週間いさせてもらえるように、電話でお願いしておきました。家にも何もすることがないのですが、車を貸してもらえたので、あちこちにドライブしたり、家にある簡単そうな本を読んだりして、過ごしていました。

こちらの家族にも 12 月に結婚することを話すと、ぜひ日本に行って、結婚式に出たいと言ってくれました。完全にオーストラリアを離れることになったので、2 番目と 3 番目の家族にもサモアに行くことを伝えました。2 番目の家族は、出発時のパースまでのことや、飛行機の都合でシドニーに 1 泊する時のことを心配してくれました。パースまでは、知り合いに声をかけてくれたようで、ちょうどその日にパースに行く人が車に乗せてくれることになりました。シドニーには、奥さんの妹さん家族が住んでいるとのことで、1 泊泊めてもらえることになりました。シドニーの空港にも迎えに来てくれるとのことと本当に何もかもお世話になり、感謝しています。

見沼区 斉藤

🍀 おおみや教会通信はカトリック大宮教会の HP (<https://catholic-omiya.net>) でご覧になれます。

* ご意見や投稿 (本などの感想、特集してほしいことなど) を募集しています。

FAX か郵送で受け付けています

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町 2 丁目 3 5 0 FAX 048-641-2724

カトリック大宮教会 広報部宛

* おおみや教会通信 次号の発行は 4/21 予定

